

## 過呼吸の発作

深刻な身体の症状も、実は「こころ」「に原因がある。そんな病気は少なくない。でも、高齢の患者さんの中には、「こころ」と聞いただけで拒絶反応を起こすひともいる。

75歳のA子さん。ひとり暮らしで、もともと心配性のひと。顔半分と両側の手足がしびれると訴える。だが、身体のごことを調べても異常は見つからない。身体症状を疑って、精神科か心療内科の受診を勧めらる。でも、頑として受け入れないのだ。しかも、弱い抗不安剤さえ続けてのんでくれない。で、そのうち顔を見せなくなった。

半年後、1年後にも、同じような訴えで来院し、同じような経過で来なくなった。その3ヶ月後。入浴中に、頭と心臓がひどくなり、息がしづらくなった。大息を繰り返すうちに、意識が遠のくように感じ、全身がしびれた。とうやら、過呼吸の発作を起こしたようだ。過呼吸では、息苦しくなるだけではない。目まいや動悸、しびれなどがよくみられる。

過呼吸には、肺や心臓、糖尿病などの身体の病気が原因で起きるものもある。だ

過呼吸には、肺や心臓、糖尿病などの身体の病気が原因で起きるものもある。だが、Aさんの過呼吸の発作は、身体の病気が否定され、精神的なストレスや不安が原因であると考えられた。

こころが原因の過呼吸には、急性型と慢性型がある。急性型はストレスが原因で起きる単発の発作。慢性型は10〜30代の女性に多い。パニック障害などと関連が深く、発作を繰り返すものだ。どのタイプかを知るには、経過をよくみたうえで、必要なら専門的にこころの背景を探る必要がある。

さて、A子さん。過呼吸でつらい思いをしたせいか、今では薬もきちんと飲んでる。今度こそは、精神科であっても受診してくれそう。それにしても、老人はどうしても頑固なのだろうか。ま、他人のことはいえないが。

(石黒修三||いし黒ろクリニック・脳神経外科専門医…8/2北國新聞掲載)